



相模原市本村市長と面会

先月、本村賢太郎相模原市長を力石支部長他2名が表敬しました。この時の状況について、同席した三佐尾理事(防災担当)からの寄稿がありましたので、ここに掲載します。

* * * * *

11月11日午後、相模原市役所本館2階市長室において、本村賢太郎相模原市長を、力石支部長、武田理事及び三佐尾理事の3名で表敬訪問した。

冒頭、力石支部長から、支部長就任の挨拶を申し述べると共に、市長には常日頃より隊友会活動にご理解いただいていること、先のオリンピック競技支援活動において市と連携が図れたこと、そして市長名の礼状を2度いただいたこと等について感謝の意を表した。

次に三佐尾理事から、市との防災協定に基づき危機管理課河野氏との密な連携の下、円滑な活動が実施できていることに感謝の意を表明した。また、オリンピック競技支援活動が全国紙である隊友紙に掲載され、当活動が評価されていることを紹介した。

続いて武田理事から、支部の活動として自衛隊員の慰霊碑が市内各所に存在しており、定期的に清掃事業を行っていることを紹介した。

最後に市長との記念撮影を行って面談を終了した。

【三佐尾】



市長室にて：向かって右から三佐尾理事、力石支部長、本村市長、武田理事

殉職隊員慰霊碑等、秋の清掃活動実施

県北支部の恒例行事である殉職隊員慰霊碑等の清掃が十一月二十一日(日)、国道四一三号線及び県道五一八号線沿いに点在する四か所で実施されました。この日、隊友会会員六名(力石支部長、武田、岡澤、伊藤、魚住各理事及び斎藤会員)と現役隊員三名(座間駐屯地第四施設群伊藤副群長、千葉最先任上級曹長及び茨城県古賀駐屯地第一施設団芦谷最先任上級曹長)計九名は津久

井クリーンセンターに集結。好天に恵まれる中、粛々と作業を進めました。殉職隊員慰霊碑(故・福森陸士長及び故・林陸士長)では清掃後線香を手向け、ご冥福並びに敬意の念を表しました。

今回の作業では、慰霊碑等に刻まれた碑文がだいぶ色あせていたことが問題視され、次回(令和四年五月実施予定)作業における課題として認識を共有するに至りました。



【上】福森陸士長慰霊碑

【下右】健児の華道記念碑清掃状況

【下左】林陸士長慰霊碑

(裏面へ続く)

【弔意】

松本 祐輔 様（空） 座間市相模が丘
十一月 九日 ご逝去 衷心よりお悔やみ申し上げます

史跡を訪ねてー航空神社ー
（相模原市緑区川尻）

城山湖南東に隣接する牡龍籠山（おたつごやま）中腹にある金毘羅神社。さらにその上のほぼ山頂に航空神社と呼ばれる小さな祠が設置されています。

かつて、この地域周辺で殉職した陸軍航空隊搭乗員を祭ったものであり、祠の後方に設置され、「航空神社」「国土安全」と銘記された記念碑の裏に次のように記されています。

『昭和十六年三月二十三日爆撃機墜落搭乗者
二名爆死』

同十九年四月八日戦斗機隼号墜落搭乗者

戦死埼玉県熊谷市久保島出身今泉英一

龍翔院殉国道英居士 行年 二十一才

昭和十九年九月二十日祭祀』

同記念碑は戦後の昭和三十九年に設置されたようです。爆撃機の機種は具体的な記載はありませんが、搭乗員が二名だとすると九九式襲撃機の可能性が高く、訓練飛行中に墜落したものであると思われます。また隼（一式戦闘機）についても時期が米軍の日本本土空襲が本格化する前であり、訓練中の事故ではないかと思われます。



九九式襲撃機



一式戦闘機「隼」

【アクセス】

駐車場が本年から閉鎖され、近傍道路は自動二輪走行禁止とのことで、公共交通機関をご利用ください。神奈中バス「大戸」から徒歩約25分。「大戸」へは橋本駅北口バス停5番乗り場が便利です。

なお、途中急な坂や足場の悪い箇所もありますので登山靴や登山用ステッキがあると安全です。また、自販機や飲食店は皆無のため飲料水や携行口糧をお持ちになると便利です。

県北季節の風景

キリスト教の開祖イエスの誕生日として広く認知されている12月25日ですが、実際、そのような記録はなく、元はヨーロッパで太陽神を讃える冬至のお祭りの日でした。ツリーの飾り付けやプレゼント交換

次号までの主な予定

県	4/四 理事役会 2月26日(土) 14時 地本
	神奈川県自衛隊音楽祭り2022 3月6日(日)
	神奈川県民ホール
支部	隊友紙仕分け1月29日(土) 10時00分セレモア
	2月26日(土) 09時30分セレモア
	賀詞交歓会 2月6日(日) 13時00分
	みんなの山ちゃん(細部別添案内状参照)
	4/四理事会 3月5日(土) 10時セレモア

隊友紙配布状況

区分	総数	手配り数	郵送数	手配り率
正会員	232	215	17	93%
特別会員	11	9	2	82%
計	243	224	19	88%



小田急相模大野駅の
クリスマスツリー

はその時の習慣の名残だそうです。天照大神を崇める日本人として、遠く西方の太陽神にも思いを馳せてみるのもいかがでしょう。